

「クリーニングドクターの豆知識」その5

～レーヨンの夏服にはご用心!～

ご存知の方も多いと思いますが、夏の間よくアロハシャツを着ています。あの生地は全てレーヨンです。私はレーヨンが好きなのです。というわけで、今回はレーヨンの話にしばしお付き合い下さい。

●レーヨンとは？

そもそも絹に似せて作った再生繊維で、昔は人絹(人工絹糸)と呼ばれていました。

♪肌触りがなめらかである ♪吸湿・放湿性がよい ♪光沢があり美しい

♪よく染まる ♪熱に強い ♪静電気を起こしにくい

などの長所があります。滑らかな肌触りのため、肌に直接触れる服、例えばブラウスなどの夏服によく使われます。

レーヨン100%もあるし、他の繊維(麻や化繊など)と混紡で使われる場合も多くあります。

●レーヨンの問題点

どんな繊維でも何か欠点があります。レーヨンの場合は「水洗いで縮みやすい」という点です。もちろん全てのレーヨン製品が縮むわけではなく、メーカー表示で「水洗い×」の物でも、問題なく洗える場合もあります。問題は「どれが縮んで、どれが縮まないかは、実際洗ってみなくては判らない」という事です。この縮みの問題は、水を使わないドライクリーニングで洗えば一応は解決します。

ただし!・・・(これからが大事な点です)ドライクリーニングで汗などの水溶性の汚れを落とすのは限界があります。縮みを避けるためにドライで洗うのは悪いことではありませんが、肝心の汗汚れはあまり期待できません。レーヨンの場合は先ほど述べたように、夏物のブラウスやニットなどに多く使用されます。着用後は当然汗を吸っています。水洗いすれば汗は落ちますが、縮むかもしれない。ドライだと縮まないけど汗はほとんど落ちない。シミは残ったまま。さて、どうしましょうか？



水洗い不可です

●当店でのレーヨンの取り扱い

以前、麻・レーヨン混紡の夏物のスリーピースを(おせっかいで)水洗いしたら見事に縮んで弁償したことがあります(K姉妹さん、あの時はすみません)。良かれと思って水洗いしても、縮んでしまっただけは何にもなりません。基本的に当店ではレーヨン素材はドライクリーニングです。お客様の服をお預かりする以上は、汚れが落ちにくいと判っていても仕方がありません。汗ジミなどがついて、どうしても水洗いや漂白が必要な場合は、お客様に「方が一縮むことがある」旨を了承頂く必要があります。もちろんメーカー表示で「水洗い○」の場合は別です。

●レーヨンの服を購入する場合

特に夏服の場合はレーヨンに限らず、どんなに気に入ったデザイン・色柄でも、水洗い可能かどうかをまず確認したほうがよいでしょう。水洗い不可の場合だと、一度汗ジミが発生すると、安全に除去する方法はかなり限られます。特に白やベージュなどのシミが目立つ薄い色だと、着用の仕方次第ではせいぜい1、2シーズンしか着られない場合もあります。生地の特徴を知って、賢くおしゃれを楽しんでください。よくわからない場合はご相談ください。そのための会員制なのです。

